～九州から起業家を目指して、熱き思いを語る～

第10回 大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト

大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト実行委員会（九州経済産業局、福岡市、九州経済連合会、中小企業基盤整備機構九州支部、日刊工業新聞社西部支社、九州地域産業活性化センター、九州ニュービジネス協議会）主催の「第10回大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト」が12月22日、福岡市中央区の福岡市役所講堂で開かれた。今回は大学、大学院、高専の21校から47件の応募があり、事前選考を勝ち抜いた7校の学生が審査委員と来場者を前に独自のビジネスプランを披露。審査の結果、九州大学大学院システム情報科学府情報学専攻の木村一郎さんと中野雅俊さんが提案した「Ｂｌｕｅｔｏｏｔｈ　オシロスコープの商品化と普及による、ものづくり文化と理系教育の活性化」がグランプリに決定した。その他に九州経済産業局長賞、九州経済連合会長賞、優秀賞が選ばれた。

九州大学大学院の木村さんと、中野さんは11年3月3日に東海大学交友会館（東京・霞が関）で開かれる全国大会に出場する。

グランプリ

「Ｂｌｕｅｔｏｏｔｈ　オシロスコープの商品化と普及による、ものづくり文化と理系教育の活性化」

九州大学大学院　木村一郎さん　中野雅俊さん

グランプリに選ばれた九州大学大学院の「ブルーツゥースオシロスコープ」は、安価で操作が簡単なオシロスコープを開発。価格は一台2万円で、パソコンやスマートフォンを使って計測できるため開発コストを抑えることができた。

従来のオシロスコープは値段が高く、回線が複雑なため持ち運ぶこともできなかった点を改善。エクセルなどの表計算ソフトによる計測データの解析や整理をその場で即座に行うことができ、ネットワークを介した計測データの共有もできる。学生などが誰でも、どこでも、手軽に使用できるため、学習や実験、工作の効率が上がる。さらにモノづくりや研究活動、理系教育にも役立つ。

電気信号を波形として表示するアプリケーションも開発して大学、高専、小中学校での理科実験に使用することも考えている。

「海外で模倣される可能性もあるのではないか」「他の追随を許さないような工夫はあるのか」「卒業後事業化する気はあるのか」など質問が相次いだ。

一方、九州経済産業局長賞は北九州工業高等専門学校専攻科の真鍋ゆきさんが発表した「コードニード」が選ばれた。自分の顔写真や身長を元にネット上にマネキンを作り、手持ちの洋服や自分が好きな画像を登録してもらい洋服のコーディネートをするという内容。すでに持っている洋服のコーディネートと新しい洋服の提案も行う。ユーザーはデータを蓄積して買い物をすることができ、また自分のコーディネートを公開することもできる。洋服店から自分に似合う洋服を提案してもらうことも可能。コードニードとはフランス語の調整するを意味するコードと英語のニードを合わせた造語。自分が好きな画像を元に利用する時の気分や手持ちの洋服を使う「オススメコーディネート」と、持っている特定の洋服を選択して組み合わせを提案する「活用コーディネート」の二つがある。

審査員からは「知的財産や開発費などの問題はクリアしないといけないのでは」「洋服の情報が多く集まりすぎて分からなくなるのではないか」など実際のビジネスをにらんだ質問とアドバイスが飛んだ。

九州大学大学院の木村一郎さん、中野雅俊さん

北九州工業高等専門学校の真鍋ゆきさん

九州経済産業局長賞

「Coordonnéed（コードニード）」

北九州工業高等専門学校　真鍋ゆきさん

メッセージ

滝本 徹　九州経済産業局長

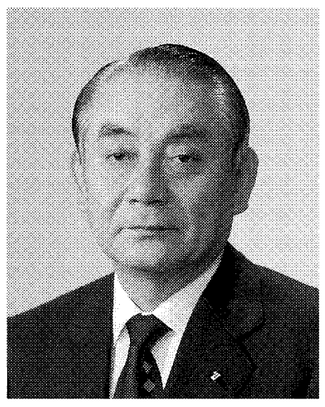
今回、初めて「大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト」に参加いたしましたが感想が二つあります。一つは、このコンテストは非常にクリエーティブで実践的であり、大変すばらしい教育効果のある事業だということです。二つ目は福岡を中心とする財界の皆さんがこれを応援するベンチャー生態系をつくっておられることに感心した次第です。

発表されたビジネスプランは新技術に基づくものや地域社会の課題解決につながるものなど多彩であり、プレゼンする学生さんの生き生きとした姿も印象的でした。今後、大学、高専との更なる関係強化により事業のますますの発展と、このチャレンジングなコンテストをきっかけに、新たなビジネスの創出や多くのアントレプレナーが生まれることを期待しています。

起業家の誕生に期待

メッセージ

松尾 新吾　委員長（大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト実行委員会）九州電力株式会社　代表取締役会長



大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテストは、第10回目の開催を迎えました。

今回は過去最多の21の大学、高専から甲乙付け難い47プランの応募があり、多数の学校関係者の方々にご参加いただきました。経済情勢や雇用形態の変化に伴い、起業家教育への関心の高まりがその背景にあるのではないかと思っております。

九州では全国的にみても早い時期から経済界が中心となり、誇りと責任をもって「起業家の卵の育成」に取り組んでいます。受賞した学生の皆さんには今回の経験を糧としてさらに高く飛躍していただきたいと願っております。

本コンテストは今後とも、学校関係者の方々と連携しながら、九州ひいては日本経済活性化に資する起業家の輩出に努めて参りたいと考えております。

経験を糧に飛躍を

九州経済連合会長賞

「ＥＶ（電気自動車）充電スポットの稼働率向上ビジネス」

九州大学大学院　木村誠一郎さん　織田章宏さん
九州大学　吉田幸之介さん

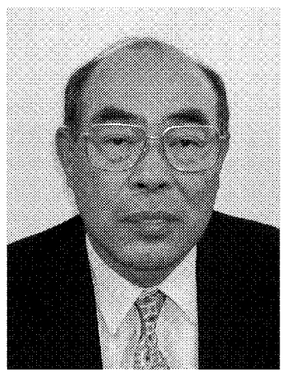
九州経済連合会長賞は九州大学大学院工学府水素エネルギーシステム専攻の木村誠一郎さん、織田章宏さん、九州大学工学部の吉田幸之介さんが発表した「ＥＶ（電気自動車）充電スポットの稼働率向上ビジネス」が受賞した。電気自動車の普及に欠かせない充電スポットの情報を提供するシステムを開発、販売する。

充電スポットの利用状況をリアルタイムに把握することができ、充電スポット設置者やＥＶユーザーは充電スポットの効率利用が可能となる。現在、充電スタンドの位置情報確認は携帯電話などでできるが、充電スタンドが空いてなければ充電終了まで待機しなければならなかった。またメーカーごとに分かれていた充電器の利用状況の提供サービスも統合することで利便性が増す。すでに充電スポット情報提供サイトを運営しており、空き情報はカーナビ画面やインターネット上で確認できるようにする。

九州大学大学院の木村誠一郎さん、織田章宏さん
九州大学の吉田幸之助さん

講評

古賀 光雄　審査委員長（トーマツ・ベンチャーサポート株式会社　代表取締役社長）



今年も多くのことを教えていただき、感謝しています。グランプリのオシロスコープの商品化と普及によるビジネスプランは必要性という問題をよく捉えていました。みんなで使えたらいいなという必要性と高い実現性が評価された結果だと思います。

コードニードは個人のおしゃれについてＩＴを活用したビジネスでした。さらなる新しいビジネスの展開が考えられると思います。

電気自動車の充電スポットの稼働率向上ビジネスは今からのビジネス、ぜひ実現させてほしいと思います。

そのほか地域密着や困っていることをビジネスにしたプランが学生らしさを感じさせてくれました。

今回のプレゼンテーションは非常にレベルが高いものでした。やりたい、やってやるという思いが自信につながって、説得力が増した結果だと思います。ありがとうございました。

必要性と実現性を評価

優秀賞

崇城大学大学院　扇谷昌宏さん

有明工業高等専門学校　豊福卓哉さん　松田倫明さん　野口卓朗さん　笹尾嘉則さん

福岡大学　田尻将揮さん　筒井優さん　宮田友紀子さん　永田浩平さん　春田哲志さん

長崎大学　小川恭範さん　林田圭太さん　空閑陽一郎さん

コンテストの受賞者

審査員からは「メンテナンスは考えているのか」「もう少し機能をつけたらどうか」、「現時点の技術で通用するだけではだめなのでは」などアドバイスが出た。

優秀賞には崇城大学大学院工学研究科応用生命科学専攻の扇谷昌宏さんの「バイオマス有効利用に基づく焼酎粕の機能性食品への応用　焼酎粕タブレット『際食健美』」、有明工業高等専門学校生産情報システム工学専攻科の豊福卓哉さん、野口卓朗さん、松田倫明さん、笹尾嘉則さんの「表面筋電位を用いた身体障害者支援システム」、福岡大学経済学部産業経済学科の田尻将揮さん、同大経済学部経済学科の永田浩平さん、春田哲志さん、同大法学部経営法学科の宮田友紀子さんの「作家が育つ電子書籍」、長崎大学経済学部総合経済学科の小川恭範さん、空閑陽一郎さん、林田圭太さんの「人々と共に歩く、地域密着型宅配サービス〝アルク〟」

崇城大学大学院の焼酎粕タブレットは九州の特産品である焼酎の製造時に出る焼酎かすを利用した機能性食品。焼酎かすにはアミノ酸、たんぱく質、ミネラルなどが含まれており、廃棄していたものを製品として開発した。審査員からは「製品にストーリーを持たせて、品質管理を徹底すること。通信販売をするなら広告費を相当かけないといけない」「効果の検証はちゃんとしているのか」など現実的な質問が飛んだ。

有明高専の表面筋電位を用いた身体障害者支援システムは筋肉を動かす際に発生する信号を電極パッドで読み取り、装置の入力を行う。患者が一人でテレビやパソコンの操作ができるようになる。持ち運びが容易で患者一人ひとりの要望に応えて変更も可能。審査員からは「どういった患者を対象としているのか」「健常者だけの調査でいいのか」など質問が飛んだ。

福岡大学の作家が育つ電子書籍は端末による書籍ダウンロード数に応じて電子書籍の料金を決定し、作家は感想を投稿してくれた読者にお金を払うシステム。ダウンロード数が少なければ無料で読むこともでき、読者が感想を書くことでお金を得ることができるため読者数を確保する効果がある。審査員からは「料金に上限はあるのか」「子供たちも使えるようにしてほしい」「浸透させるための営業方法は考えているのか」などの質問があった。

長崎大学の地域密着型宅配サービス〝アルク〟は商店街の商品を顧客から注文を受けて宅配するサービス。高齢者や主婦などの買い物の手間を省き、商店街を利用する人を増やすことで地域活性化を促す。審査員からは「受付時間などはあるのか。雇用人数から売り上げや経費を割り出さなければならない」「全部自分たちでやろうとせずに、新聞配達業者との連携を考えたらどうか」など助言もあった。

同日は岡本貴士アースライト社長が「こっそり教える　若手起業家成功の秘訣」をテーマに講演。「やってみようという気持ちを大事にしてほしい」と学生にエールを送った。

岡本貴士　アースライト社長

□大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト実行委員会

（九州経済産業局、福岡市、社団法人九州経済連合会、独立行政法人中小企業基盤整備機構九州支部
日刊工業新聞社西部支社、財団法人九州地域産業活性化センター、社団法人九州ニュービジネス協議会）